

新リーダーシップの横顔



会長

イェルク・ホフマン
(ドイツ・IGメタル出身)

2016年10月5日にブラジル・リオデジャネイロで開催された第2回インダストリアル世界大会でインダストリアル・グローバルユニオン会長に選出された。ドイツ最大の全国組合IGメタルの会長。

1955年にドイツのオッペルスボームに生まれ、学業修了後まず農業の訓練を受けたのち、シュトゥットガルト・ホーヘンハイム大学、パリ大学、ブレーメン大学で学び、経済学の学位を取得した。シュトゥットガルト・ホーヘンハイム大学工業経営研究所の研究員を経て、1982年から1987年までIGメタルで新技術の専門家として働いた。

1987年から1999年まで、シュトゥットガルトのIGメタル地方支部で労働組合書記を務める。ドイツ再統一後の1990年から1991年にかけて、旧東ドイツのドレスデンでIGメタル地方支部の設立も担当した。パーデン・ビュルテンベルクでIGメタル地域役員を務めたあと、2013年にIGメタル副会長に就任、2015年にIGメタル会長に選出された。



書記長

アトレ・ホイエ
(ノルウェー・合同労組出身)

2016年10月の第2回世界大会で、インダストリアル・グローバルユニオンの書記次長に選出された。ノルウェー化学技術大学の工学修士課程終了後、ノルウェー経済大学で経済学・経営学修士課程を修了。2004年にはノルウェー防衛成人大学を受講。大学卒業後の1993年にLO（ノルウェー労働総同盟）勤労生活局に入局した。LOには1995年まで勤務し、その後2016年までノルウェー合同労組で国際担当官として、すべての国際関係の調整を行った。2016年からは、インダストリアル書記次長として自動車、航空宇宙、造船・船舶解撤のプロジェクト、ホワイトカラー部会、およびサハラ以南アフリカ地域を担当し、インダストリアルの主要活動を支えてきた。



書記次長

ケマル・ウズカン

(トルコ・石油・化学・ゴム労組出身)

経済学・経営学修士号を持つエンジニア。80年代中ごろ、トルコが民主主義に復帰すると、高校・大学時代に政治・市民社会・労働組合活動を開始。その後、独立した民主的組合の結成・発展、特にオルグ・キャンペーンに活動家として関与する。1991年のトルコ進歩労働組合連合(DISK)再開後、石油・化学・ゴム労組に加わり活動した。2012年、2016年のインダストリオール・グローバルユニオン結成大会と第2回世界大会で、書記次長に選出された。主要多国籍企業におけるグローバル・地域労働組合ネットワークの設立や、グローバル枠組み協定の交渉と実施に積極的に関与し、さまざまな部門や地域で特定の企業別・テーマ別キャンペーンも主導している。勇猛果敢な活動家の家庭に生まれ育った労働組合活動家二世。



書記次長

松崎 寛

(金属労協/JCM出身)

1998年、全日本金属産業労働組合協議会(金属労協/JCM)に入職。JCMでは国際局、政策局主任として、生産拠点の強化と持続可能な雇用の確保に関する産業政策や環境政策の調整・策定を担当。東南アジアで金属労働者全体の国際連帯を促進するという特定任務も与えられた。

2010年8月から国際金属労連(IMF)に赴任、2012年のインダストリオール結成まで造船・事務技術職労働者を担当した。その後、ICT電機・電子/造船・船舶解撤担当部長に任命される。両部門において、組合ネットワークの拡大、持続可能な産業政策の促進、組織化プロジェクト(南アジアの船舶解撤労働者、東南アジアのICT電機・電子労働者)の主導に携わり、不安定労働者の組織化に大きな成果を上げた。



書記次長

クリスティン・オリビエ

(南アフリカ・NUMSA出身)

32年前、アングコン・テクノロジーズ(現アイトロン社)の工場で職人として職業人生をスタート。25年前にNUMSAに入り、その後、職場委員、支部長、地域副会長、地域会長を歴任した。2008年にNUMSAの副会長に選出され、その8年後国際及びジェンダー担当専従副会長となる。その間、ICEM(国際化学エネルギー鉱山一般労連)、インダストリオール、NUMSA、COSATU(南アフリカ労働組合連合)の女性委員会で活動を行ってきた。IMF(国際金属労連)執行委員、ICEM副会長、インダストリオール執行委員など、国際レベルで活躍してきた。主な活動としては、アフリカにおける労働組合構築支援、その一環としてスワジランド及びジンバブエでの組合統合支援を行った。また、人権・労働組合権侵害に抗議する連帯キャンペーンでは、労働組合権侵害に反対するインダストリオールの様々なキャンペーンに積極的に参加してきた。インダストリオール女性委員会初代共同議長を務め、現在は自動車産業部会共同議長を務めている。